

## ◆松平不昧ゆかりの品々

松江藩七代藩主松平治郷は、<sup>ふまい</sup>不昧と号して江戸後期の大名茶人として全国に知られ、散逸や消失することを心配して収集した茶道具は「雲州蔵帳」の肩書により茶人の間で珍重されています。また、不昧は茶の湯を普及すると同時に陶芸や漆工、木竹工など茶道具の工芸技術をはじめ、お菓子や料理などの食文化の進展を促し今日の地域文化の基を作り、不昧公好みの名でも知られます。本展は近年寄贈を受けた不昧ゆかりの作品をご紹介します。

### 日の出図 松平不昧筆 紙本着色

本図は、画中の款記から中国・元時代の画家  
<sup>こうねんき</sup>高然暉筆の絵画に倣って描くもので、山間から  
のぼる朝日を神々しく描いている。本図には書  
画をよくし禅画などに飄逸<sup>ひょういつ</sup>な筆致で知られる  
不昧の特色が認められる。



### 竹花入 銘 ほととぎす 杉楽院与里子作

この一重切花入は将軍徳川家治から拝領した  
<sup>のぼりたけ</sup>幟竹を実家の仙台藩伊達家から譲られ作ったもの。  
不昧の正室与里子は、茶をたしなみ和歌を得意とし  
「礪川」の俳名をもち夫婦仲睦まじかった。不昧没  
後は <sup>せいらくいん</sup>杉楽院と名乗り大崎下屋敷で過ごした。

### 松平不昧公像 楽山焼 長岡空味作

大正6年(1917)

不昧公百年忌を記念して、美術研究家桑原羊次郎  
(松江市出身、昭和31年没)の監修で作られた座  
像。背面には「不昧公百年忌記念 大正六年四月二四  
日 双蛙製」とある。木彫家内藤 <sup>ないとう しん</sup>伸(島根県出身)の  
不昧公像を参考にしたという。

